

毎週日曜発行
2025 8/3

河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)

きょうのテーマ

みんなの将来

みんな動こう

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ

松島・人々の信仰を集めた「雄島」

ニュース

も
教
え
て

こども記者が取材



雄島に渡る渡月橋で新野さん(右)の説明を聞くこども記者

宮城県松島町は観光地として有名ですが、歴史をたどると、中世から江戸時代終わりにかけて人々の信仰を集める霊場でもありました。7月20日こども新聞1・8面に続き、松島一小5年のこ

今回のこども記者は手代木咲穂さん(10)、土井陽太さん(10)、蜂谷拓久さん(11)、平山蛍さん(10)です。
雄島は、赤い渡月橋を渡って行く南北約200m、東西約40mの小さい島です。雄島に詳しい

ども記者4人が、霊場の中心地だったとされる雄島を歩き、その理由などを探りました。
(6面に関連記事)

極楽浄土への思い、今に

島から見えるのは、広い海に島々が浮かぶ雄大な景色です。「人の力及ばない自然の美しい景色は、仏がつくったものの。当時の人々は、極楽浄土ととらえました」と新野さん。12世紀に見仏上人、13世紀に頼賢という徳の高い僧が来島し、島から1歩も出ずに10年以上修行に励み、聖地化が進みました。2005年の発掘調査で、12世紀後半ごろから、火葬した骨の納骨が行われていたことが分かりました。「見仏上人がいた地に納骨すれば極楽浄土に行ける、という考えが広まったためです」



瑞巖寺宝物館学芸員の野一浩さん(60)が案内してくれました。
島の名前の由来は「徳のあるお坊さんが住んでいたため、丁寧語を付けて『御島』と呼ばれ、そこから雄島となった説が有力です」と教えてくれました。

新野さんがこども記者の足元にあった白いかけらを「人の骨です」と説明すると、4人は驚きの声を挙げました。納骨は明治時代初期まで続き、島の至るところに形跡が残っています。



大小さまざまな石の供養塔、板碑もたくさん建てられました。亡くなった人を供養するだけでなく、自分自身のために建てたものもあります。

新野さんは「実は海にも多くの板碑が沈んでいます」と明かします。明治から大正時代初めに行われた、島の公園化事業の際に遺棄されたものだそうです。

こども記者は、一昔前の人々の極楽浄土への強い思いを感じながら、約1時間の散策を終えました。

10、17日付休みます
こども新聞は10日、17日、休刊とさせていただきます。



この日 何の日

◇8日(金) 歯並びの日

正しい矯正歯科治療の普及を目指し、日本臨床矯正歯科医会が制定。日付は歯(8)並びの語呂合わせ。笑い声の「ハッハッハッ」のイメージが健康をテーマにした矯正歯科にふさわしいという意味もあります。

きょうの紙面

- 2面 楽しく作ろう
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 こども記者
- 7面 投稿特集
- 8面 投稿特集